

会 議 録

1 会議名

令和元年度 第3回 阿賀野市行政改革推進委員会

2 開催日時

令和元年 11月15日（金） 午前9時30分から午後12時00分まで

3 開催場所

阿賀野市役所 別館3階 302会議室

4 出席者の氏名(敬称略)

- ・出席：伊藤委員長、漆山委員長職務代理、太田委員、大淵委員、小野里委員
小林委員、菅井委員（欠席：成川委員）（8人中7人出席）
- ・事務局：企画財政課（大橋企画財政課長、小山企画係長、廣川主任）

5 議題(公開・非公開の別)

- (1) 「阿賀野市事業の外部評価及び行政改革推進計画の策定について（諮問）」に対する外部評価の答申案について（公開）
- (2) 阿賀野市行政改革推進計画案の検討について（公開）

6 非公開の理由

—

7 傍聴者の数

—

8 発言の内容

委員長

おはようございます。

第3回行政改革推進委員会ということで、今回は2つの議案の審議である。

1つ目は先日、外部評価を実施した6事業の効果検証については、終日お疲れさまでした。

事務局が作成した評価内容については、取組の方向性と実施に当たって考慮すべき内容が記載されている。

委員の皆様から確認願いたい。

2つ目は、阿賀野市行政改革推進計画案の審議である。これは、効率的かつ効果的な視点からの市民目線としての審議がポイントであると思っている。

よろしくお願いします。

それでは、議題（1）から事務局より説明願います。

(1)「阿賀野市事業の外部評価及び行政改革推進計画の策定について(諮問)」に対する外部評価の答申案について(公開)

(資料1から3に基づき事務局より説明)

委員長

それでは、皆様いかがでしょうか。

委員

(行政改革推進アドバイザーである) 宍戸教授はこの内容をご覧になっているか。

事務局

先日、第2回委員会の議事要旨と併せてお送りしたが、当日の審議に同席していないので具体的なご指摘はなかった。

委員

資料4（阿賀野市行政改革推進計画案）が議題に上がっているため、今回11月の委員会には来る予定にはなかったのか。

事務局

行政改革推進アドバイザーをお願いした主たる目的は「阿賀野市行政改革推進計画（案）の審議」である。

このため、本日の委員会もお願いしたが、ご都合がつかなかったため、先日11日に来庁いただき、委員長立会いのもとで議題（2）について、先に審議いただいた。

その審議に基づき、今回当日資料になったが修正を加えた資料4をお配りしたものを。

委員の皆様には、この修正内容も含めてご確認と審議をいただきたい。

委員一同

(承知した)

【学校給食の効率的運営】

評価判定：改善（改善4、継続2、代替案1）

委員長

それでは、整理番号1「学校給食の効率的運営」についてご意見はあるか。

事務局でこの内容にまとめた意図は、児童数の推移を踏まえながら栄養士の配置を考えていこうという事だと思いがいかか。

事務局

評価当日の皆様の見解を踏まえると、栄養士の配置だけが問題ではなくて、それは一つの要素であって、市として今後の学校配置の在り方から考えるべきなのではないか、といったご意見が総意であったとの解釈から、このような付帯意見とした。

委員長

この資料は、このまま市長決裁を受けるのか。

事務局

このままの形で市長報告する。

委員長

それでは、皆様この内容でよろしいか。

委員一同

(異議なし)

【芸能・文化祭開催事業の効率的支援】

評価判定：改善（改善7）

委員長

それでは、整理番号2「芸能・文化祭開催事業の効率的支援」に移る。

こちらは全て「改善」で意見が一致している。

内容としては、今ある4地区の団体を将来的に統合できるように育てて、自立させていくという考えだと思うが、ご意見はあるか。

委員

意見というより感想であるが、今回改めて文化祭を観に行ったが、昔と比べると閑散としていた。

仮に、もっと広めたいのであれば、開催時に出入り禁止となっていた体育館のランニングコースも使えるようにすべき。

またもう一つ、旧前山小学校で黒板アートもこの文化祭事業とタイアップしてできればよいとも感じた。

委員

「瓦」や「ヨーグルト」など、民間からの活力をもらって実施を考えても良いと思う。

委員

「風とびあ」は良いが、部屋を使わないで廊下を利用している。せっかく部屋があるので、そこを利用して立体的なレイアウトにすることも一考ではないか。

委員長

皆さんの意見のとおり、より人を集めるような事業展開をお願いしたい。

以上であるがいかがか。

委員一同

(異議なし)

【あがの市民活動補助事業】

評価判定：継続（継続5、改善1、拡大・拡充1）

委員長

次に整理番号3「あがの市民活動補助事業」である。

これは、さらなるPR活動、そして最終的には自立、つまり補助がなければ終わりという事ではないと思うがこれでよろしいか。

委員一同

(異議なし)

【安田B&G海洋センター運営管理事業】

評価判定：改善（改善5、継続2）

委員長

次に整理番号4「安田B&G海洋センター運営管理事業」に移る。

この事業は、特に小、中学校のプールの代替施設としての検討という考えが付されているがいかがか。

これでよろしいか。

委員一同

(異議なし)

【少年自然の家運営管理事業】

評価判定：改善（改善3、継続3、民間1）※委員長採決

委員長

次に整理番号5「少年自然の家運営管理事業」に移る。

これも施設であるが「改善」と「継続」が同数であり、委員長決裁だった。

「継続」の中にも、豊かな自然を活用しながらの「継続」という趣旨が多く、私自身も自然環境を活用しながら、なんとか運営できないかという考えもあり「改善」とした。

今までも何回か外部評価を受けているが、いずれも「改善」と「継続」がある。

このことから、ある意味では課題を持った施設だろうと感じる。

委員

予算の状況であるが、先日送られてきた広報あがの11月号での決算報告では「自然の家特別会計」の歳出29,900千円であったが、前回の評価での担当課の話だと20,000千円程度であった。この差額は何か。

事務局

人件費の差額である。特別会計予算上では人件費も含めた金額であるが、評価事業では人件費を含めない評価となっている。

委員

運営としては毎年30,000千円が支出されているということか。

事務局

そのとおり。このため収支改善の視点では、当日にご意見をいただいたような、今までの社会教育施設だけではなく他の施設との連携や、キャンプ場などへの活用などを、あえて付帯意見として記載している。

委員長

早い段階で方向性をつけていかないといけないという事だと思う。

今のままだとコストとの関係だけの考えになるが、違った切り口から見ると、あれだけの豊かな自然を活用しないといけない。

委員

やはり、こうした施設は利用者の増加が必要だと考えている。

利用が増えるような複数年計画を立ててもらいたい。

委員

市外の利用者が多いというが、市外の利用者の料金は同じなのか。

事務局

市外の方の利用料は割高としている。

委員

市外の方が来てもらっているのであれば、利用料も高いので良いとは思うのだから。

事務局

収支の面だけをとらえると、割高であっても今の利用料収入だけでは成り立っていない。

委員

この付帯意見の中に「修繕」という言葉は入れにくいのか。

「改善」という評価であれば、当然費用かかる。担当課では改善したいけど予算がないといった場合に、財政部局としては受けてもらえるのか。

当然ながら、どのように活用するか「目的」が先であると思うが、その目的のために修繕しないといけない状況も考えられる。

委員長

現在は、付帯意見に「PR強化」などソフトの部分しか記していないが、ハードの部分、修繕計画の内容も加えるべきというご意見だと思うが。

事務局

委員のお話のとおり、これまでも、活用目的が明確でない中で修繕だけが要求されても、財政部局には通らないという現実があった。

「活用目的を明確にした後、修繕計画を策定する」趣旨の文言を追加させていただくのはいかがか。

委員

文言は任せるが、目的が決まれば、修繕の必要性も出てくるであろう。

委員

これまでの評価で、こうした議論は出てきていなかったのか。

何度か外部評価されている事業であるが、評価してきた意味がないのでないか。

委員長

平成17年度と平成20年度に改善、平成23年度と平成26年度の最近では継続という評価が出ている。その時に、修繕計画等の話があったのかどうか。

事務局

評価資料「過去の行政評価結果の反映状況等」としてお付けしたとおり、評価の内容に対しては、少しずつ改善を実施している状況がある。今回はもっと踏み込んだ内容で評価いただいている。

市としても、内部で何度も議論している内容であって、ここまで踏み込んだ評価をいただかないと、大きくは変わらないという状況がある。

委員長

今回の評価によって、例えば温泉がいいのか、民間を利用したほうがいいのかという議論にもなると思うが、そうなる社会教育施設かどうかという議論も出てくるだろう。

他にご意見はないだろうか。

委員一同

(異議なし)

【いきいきボランティア応援事業】

評価判定：継続（継続5、改善1、拡大・拡充1）

委員長

それでは、整理番号6「いきいきボランティア応援事業」である。

この事業は、PR強化とメニューの数を増やすということだがいかがか。

委員

この事業をやっているカードも持っているが、自分はこの事業があるからボランティアをしているのではないので、そもそも、なぜこの事業はあるのかとを感じる。

内心は必要ないのではとも思っている。

事務局

今ほど、委員からお話いただいた内容のとおり、あがのポイント付与が事業の動機づけになっているかを検証する必要があると付帯意見には記載している。

委員

近年は、環境問題が話題になっている。

こうした「環境問題を含めた活動メニュー」という言葉を加えると、もっとメニューの幅も広がるのではないか。

委員長

実際に動機づけの検証はできるか。

事務局

アンケート調査を実施などという方法に限られると思われる。

委員長

難しいからしないということではなく、いろいろな方法を考えないといけない。

付帯意見として「検証すること」という内容を記載して、それを踏まえて担当課がどのように考えるかだと思う。

本当に動機づけになっているかどうか、というのは検証してみないとわからない。

他にご意見はあるか。

委員一同

(異議なし)

委員長

それでは、これまでのコメントで付加するところがある部分は事務局で修正するという
ことで良いか。

事務局

本日いただいた内容を、我々で改めて加除して郵送でお送りする。

(2)阿賀野市行政改革推進計画案の検討について(公開)

委員長

それでは、議題(2)の行政改革推進計画案の検討ということで、11月11日に、宍戸教授と私で検討し意見を述べた内容を、新たに事務局でまとめたものが、本日配られた「改定版」という資料だと思うが、事務局から説明願いたい。

(資料4、当日改訂版及び未定稿の行政改革推進計画案について事務局より説明)

委員長

(資料4) 概要版で、(2ページ)「なぜ必要か?」という問いに対して「将来にわたる財政の健全な水準の維持」など3つあるが、改訂版(13ページ)で「病院建設費の借入れの償還」など具体定なものが記載されている。

実際にはどっちが冒頭に来る構成にするのか。

事務局

大枠として「将来にわたる財政の健全な水準の維持」など3つ、その下に具体的な内容として「あがの市民病院建設費の借入れの償還」などが入る。

委員長

2ページの3項目の下段に具体的な内容を示すという流れか。

事務局

そのとおり。

委員

あがの市民病院の建設費については、結果的には建設費が増嵩した経緯もあったが、これからは建設費用の償還が始まる。

そして「今後はごみ処理施設の問題もあります」という内容だと思うが、建設についても全てが終わってしまってから「実は建設費の償還があるので」という話では、市民はそう簡単に納得しないのではないか。

費用を抑えるという気持ちが無いから増えたようにも感じるが。

事務局

病院建設事業は大きな事業であったので、その借り入れに対する償還は、将来、子どもたちが大人になるまでの後年負担が発生するという事。これを示した理由は、これからの後年負担の軽減の観点もある。

なお、この建設費の借入償還については、国から交付税として計算上では償還費用の70%が見込まれるという有利な借り入れでもあり、基本的には想定している計画どおりである。

今回「病院建設事業」や「ごみ処理施設」など、敢えて具体的に示したのは、市民に理解いただけるように具体的に示すようにとの阿賀野市行政改革推進計画アドバイザーからの助言もあったことからである。

委員

ごみ処理センターの話であるが、安田地区のゴミは今のごみ処理センターで対応出来るのではないか。これからは、五泉市も阿賀野市も人口が減っていく状況があるので、こうした将来的な考えも計画できるのではないか。

事務局

広域ごみ処理施設については、今年から建設委員会が発足したが、将来的なごみの総量などを計算して審議している。当市の現在のゴミ処理センターは、非常に老朽化している状況もあり、継続は難しいと考える。

委員

現在の阿賀野市のごみ処理施設の状況は（キャパシティが）一杯ではないはずだが。

事務局

笹神のゴミ処理センターに関しては、非常に老朽化が進行しており、修繕計画の中で毎年修繕しながら利用している状況。具体的には、毎年1億円弱の修繕を施して延命化しながら稼働している。

委員

7ページで、阿賀野市は「使用料・手数料」収入が低いということだが、人口を増やすような計画はあるのか。

例えば、京ヶ瀬地区には団地が増えており、姥ヶ橋地区、曾郷地区などはこれからも計画がある。民間任せの住宅団地を市で計画するようなことも考えてもらいたいが、どのように考えているか。

事務局

阿賀野市人口ビジョンという計画の中で、国が示した人口減少を抑制するような計画を持っている。そのビジョンに基づき人口減少対策に特化した総合戦略という計画の中で、具体的事業の実施を示している。

委員

阿賀野市に来ると、こういったことが有利だというような具体的なモノを見たことがない。アピールが足りないのではないか。もっと新潟市のベッドタウン的な考え方でアピールをするべきである。

事務局

確かに伝わらないという事は、アピール不足なのであると考える。

委員長

委員が言われたような、人口減少対策などの事業は総合計画や総合戦略に記載されており、それらの事業を重点的に行うための計画として、この行政改革推進計画があるという考えだと思いがいかか。

事務局

そのとおりであり、人口減少対策のようにどうしても重点的にお金を投入していかなければならない事業に投入するために一般財源を確保するという計画の位置づけである。

委員

これからは計画に基づき成果を管理していくとなると、この委員会はある程度恒常性が必要になる。

そうすると、これからの委員選定はどのようにしていくのか。

行政改革は本来、外部のオンブズマンとか議員の業務になると考える。

この委員が市長の選定に委ねられている状況があると、せっかく計画を策定して事業を管理しても、市長の考えが変わるとこの委員会の存続もどうかという話になる。

事務局

行政改革推進計画の策定の流れとしては、今後は具体的事業を各課と協議して、内部の「行政改革推進会議」での審議も経てから、この委員会をはじめ、議員の皆様にも報告して成案化していきたいと考えている。

今の委員会のあり方のお話は、他の自治体の状況も含めて今後、行政改革推進アドバイザーに助言をいただきたいと考える

委員

計画策定の内容だけでなく、この行政改革推進委員会の根拠は何か。

条例根拠はあると考えるが、具体的事業の計画に基づく進捗管理を担うことになると、委員の選定についても継続性をもった形にしていく必要があると考える。

事務局

承知した。

委員長

この計画は第4回行政改革推進委員会で答申を作成する予定か。

事務局

計画については、時間をかけて審議願いたいので、第4回の委員会でも十分に審議いただきたい。答申内容については、答申書の文言整理が大きく占められると思われるので、第4回で審議いただいた後に、郵送等の書面やり取りでも可能と考えている。

委員長

承知した。

他にご意見等はないか。

なければ、これで第3回行政改革推進委員会を閉会とする。

【 閉 会 】

9 問い合わせ先

阿賀野市役所 総務部 企画財政課 企画係

TEL : 0250-62-2510 (内線 2243)

E-mail : kikaku@city.agano.niigata.jp